

SPARC Japanセミナー

XMLの到達点と学術出版

XMLの現状への雑感

2008年6月24日

株式会社デジタルコミュニケーションズ

福重 青史



DIGITAL COMMUNICATIONS

(株)デジタルコミュニケーションズのご紹介

- 会社名 株式会社デジタルコミュニケーションズ
- 代表取締役 福重 青史
- 設立 平成10年1月22日
- 資本金 9000万円
- 従業員 10名 外部スタッフ30名
- 本社 神奈川県藤沢市渡内2-2-9
- 事業本部 東京都港区芝大門1-1-33 三洋ビル2F

1. XMLコンテンツ制作サービス
2. XMLソリューション開発サービス
3. XMLドキュメント管理システム開発サービス
4. e-learningコンテンツ制作／ソリューション開発
5. DTP自動組版システム開発／DTP制作サービス
6. WEBコンテンツ制作／システム開発サービス
7. XMLシステムの企画コンサルティング／運用管理サービス
8. XMLツール企画／開発／販売 ⇒ [事例集](#)

【最近のトピック】

- Ayaori-RSS【文織】
- Word2FLASH等のWord2XML製品のアプリケーション

Web2.0コンテンツ・マネジメント ソリューション

(1) コンテンツXML変換・オーサリングソフト

- ①XML変換ソフト
 - ☆Word2XML
 - ☆Excel2XML
 - ☆PPT2XML
 - ☆Quark2XML
- ②XML入力エディタ
 - ☆Word2XML
 - ☆Excel2XML
 - ☆XML-Square(Documentor-TM)
- ③XMLオーサリングツール
 - ☆Word2FLASH(XML2FLASH)(**新商品**)
 - ☆Word2FO(XML2FO) ☆Word2Web
 - ☆Word2Indesign(XML2Indesign)
- ④印刷系コンテンツ変換ツール
 - ☆Excel2Illustrator
 - ☆Excel2Indesign
 - ☆Quark2Indesign移行支援SDK
 - ☆Indesign画像名表示ツール

(2) Ayaori-RSS【文織】

☆文書カンバン方式を実現した超整理法文書管理システム

(3) 業種・業務別コンテンツ連携ソリューション

- ①教育機関向けコンテンツDBシステム
- ②出版印刷業向けコンテンツ作成管理システム
(技術論文作成審査システム)
- ③旅行業向けコンテンツ作成管理システム
- ④自治体向け広報作成管理システム
- ⑤金融業向け規定・約款作成管理システム
- ⑥医薬品インタビューフォーム作成管理システム
- ⑦製造業向け製品情報作成管理システム
- ⑧製造業向け品質文書作成管理システム
- ⑨建設業向け業務文書作成管理システム
- ⑩内部統制向け業務文書作成管理システム
(条例、規約、規則等の改定履歴管理)
- ⑪Webコンテンツ作成管理システム
(Net百科事典作成管理システム)

(4) 企業向けXMLアドバンス教育

(A) XMLへの歩み

1980年前半: PCブーム、米国でのDTPブーム、電算写植による組版

⇒独自MLによるDB自動組版

1980年後半: DTPとフルデジタル制作の開始

⇒SGMLの紹介(1986年: BugNews DTP啓蒙紙)

1990年前半: SGMLの実用化(独学)

自動組版、DBへ応用

※カラオケDBへの利用

※政府系SGML支援、実装(戦史叢書)

1990年後半: 米国事情調査、HTML対応

銀行規定集SGML化、IETM(マニュアル) SGML

1998年 : (株)デジタルコミュニケーションズ創立

SGML等のハイパードキュメント専門の企業

※インフォテリア創立

データ系SGML専門企業

・一太郎8SGML(開発協力)

・XML勧告

・SGMLからXML全面転換

CSS、XSL対応のブラウザの出現

自動組版はどちらでも同じ

※以後はDCの実績年表ご参照下さい。

<http://www.sgml-xml.jp/company/chronology.html>

A-1.プリプレスの進化過程とXML

プリプレスシステム	製版システム	ハイパーメディア	概略年代
活版	活版		1950
写植	フィルム手作業 スキャナー		1970
電算写植 (CTS)			
ワープロ	トータルスキャナー CEPS	GML SGML	1980
DTP	イメージセッター CEPS-DTP連携	HTML	1990
WindowsDTP	CTP	XML	2000
パソコンソフト	高速プリンタ		

A-2. プリプレスとSGMLを適合へ

福重の体験

(1)福重が自分でも触ったもの

①手動写植……1975ー

モリサワ、リョービ、写研

②自動写植……1977ー

リョービ、写研。一部マイコンを組み込み。

③電算写植……1980ー。写研一人勝ち。

※ワープロ全盛期へ(OASYSが¥100万時代)。数十の製品が乱立。

※パソコン大普及時代に(NEC9800の名機が出現)。

※活版……文庫本はまだ、活版で残っていた。修正作業。タイプライタの残っていた。

★ほのかに米国でのDTP革命なるものの噂が聞こえて来た。

★SGMLがISOで規格化 ⇒ 情報が日本へも。一部の人が注目

④電子組版……1987ー。

富士通IPS。

★DTPに関する情報が日本へあふれ出して来た。

★JAPAN AS No1を謳歌。バブル崩壊直前(1991)

★印刷業コンピュータ化で全産業でトップを走る。

⑤国産DTP……1989ー

EDIAN, EDICOLOR

⑥ポストスクリプトDTP……1991

PageMaker、QuarkXPress

⑦インターリーフ(SGMLの大実験)

A-3. プリプレスからハイパーメディアへ

福重の体験

(1)プリプレス作業の矛盾と解決方法

①同じ作業の繰り返し

②同じデータの再入力

③メディアの多様化1970－1990

音楽産業の変遷でメディアの変遷とマルチ化を体感

- ・EP, LP(アナログレコード)

- ・8トラ、カセットテープ

- ・ビデオ(VHSとベータ)

- ・VHDとLD

- ・CD

- ・通信カラオケ

- ・MD

- ・CD-ROM

- ・DVD

④DTP急成長

RDB、ハイパーカードの出現

パソコン時代、LAN

★SGMLがISOで規格化 ⇒ 情報が日本へも。一部の人が注目

⑤インターネットの出現と超ブーム1994－1996

⑥マルチメディアブーム(超短命の瞬間ブーム)1995－1997

★インターネットの超発展と改革／ITブーム到来とITバブル

☆(株)デジタルコミュニケーションズの設立(1998)

XML時代の到来を予測：同時期設立の(株)インフォテリアは昨年、上場。

1つのSGML文書进行处理し、複数レイアウトに展開

[illegible]

作品名	放送日	放送時間	放送局	備考
想しきよ一粒の涙も	051-05	19:00-19:30	日本放送	5
恋という名の酒場	004-03	19:00-19:30	日本放送	3
ガムめはガムめ	026-07	19:00-19:30	日本放送	7
X ガラガラヘビがやってくる	045-16	19:00-19:30	日本放送	16
ガラスのPALM TREE	020-07	19:00-19:30	日本放送	7
からたち日記	007-04	19:00-19:30	日本放送	4
川	010-12	19:00-19:30	日本放送	12

DTPで一括組

第1期 第1回試験		第2期 第1回試験	
第1期 第1回試験	012-018 第1-第4	第2期 第1回試験	012-018 第1-第4
第1期 第2回試験	019-024 第5-第8	第2期 第2回試験	019-024 第5-第8
第1期 第3回試験	025-030 第9-第12	第2期 第3回試験	025-030 第9-第12
第1期 第4回試験	031-036 第13-第16	第2期 第4回試験	031-036 第13-第16
第1期 第5回試験	037-042 第17-第20	第2期 第5回試験	037-042 第17-第20
第1期 第6回試験	043-048 第21-第24	第2期 第6回試験	043-048 第21-第24
第1期 第7回試験	049-054 第25-第28	第2期 第7回試験	049-054 第25-第28
第1期 第8回試験	055-060 第29-第32	第2期 第8回試験	055-060 第29-第32
第1期 第9回試験	061-066 第33-第36	第2期 第9回試験	061-066 第33-第36
第1期 第10回試験	067-072 第37-第40	第2期 第10回試験	067-072 第37-第40
第1期 第11回試験	073-078 第41-第44	第2期 第11回試験	073-078 第41-第44
第1期 第12回試験	079-084 第45-第48	第2期 第12回試験	079-084 第45-第48
第1期 第13回試験	085-090 第49-第52	第2期 第13回試験	085-090 第49-第52
第1期 第14回試験	091-096 第53-第56	第2期 第14回試験	091-096 第53-第56
第1期 第15回試験	097-102 第57-第60	第2期 第15回試験	097-102 第57-第60
第1期 第16回試験	103-108 第61-第64	第2期 第16回試験	103-108 第61-第64
第1期 第17回試験	109-114 第65-第68	第2期 第17回試験	109-114 第65-第68
第1期 第18回試験	115-120 第69-第72	第2期 第18回試験	115-120 第69-第72
第1期 第19回試験	121-126 第73-第76	第2期 第19回試験	121-126 第73-第76
第1期 第20回試験	127-132 第77-第80	第2期 第20回試験	127-132 第77-第80
第1期 第21回試験	133-138 第81-第84	第2期 第21回試験	133-138 第81-第84
第1期 第22回試験	139-144 第85-第88	第2期 第22回試験	139-144 第85-第88
第1期 第23回試験	145-150 第89-第92	第2期 第23回試験	145-150 第89-第92
第1期 第24回試験	151-156 第93-第96	第2期 第24回試験	151-156 第93-第96
第1期 第25回試験	157-162 第97-第100	第2期 第25回試験	157-162 第97-第100
第1期 第26回試験	163-168 第101-第104	第2期 第26回試験	163-168 第101-第104
第1期 第27回試験	169-174 第105-第108	第2期 第27回試験	169-174 第105-第108
第1期 第28回試験	175-180 第109-第112	第2期 第28回試験	175-180 第109-第112
第1期 第29回試験	181-186 第113-第116	第2期 第29回試験	181-186 第113-第116
第1期 第30回試験	187-192 第117-第120	第2期 第30回試験	187-192 第117-第120
第1期 第31回試験	193-198 第121-第124	第2期 第31回試験	193-198 第121-第124
第1期 第32回試験	199-204 第125-第128	第2期 第32回試験	199-204 第125-第128
第1期 第33回試験	205-210 第129-第132	第2期 第33回試験	205-210 第129-第132
第1期 第34回試験	211-216 第133-第136	第2期 第34回試験	211-216 第133-第136
第1期 第35回試験	217-222 第137-第140	第2期 第35回試験	217-222 第137-第140
第1期 第36回試験	223-228 第141-第144	第2期 第36回試験	223-228 第141-第144
第1期 第37回試験	229-234 第145-第148	第2期 第37回試験	229-234 第145-第148
第1期 第38回試験	235-240 第149-第152	第2期 第38回試験	235-240 第149-第152
第1期 第39回試験	241-246 第153-第156	第2期 第39回試験	241-246 第153-第156
第1期 第40回試験	247-252 第157-第160	第2期 第40回試験	247-252 第157-第160
第1期 第41回試験	253-258 第161-第164	第2期 第41回試験	253-258 第161-第164
第1期 第42回試験	259-264 第165-第168	第2期 第42回試験	259-264 第165-第168
第1期 第43回試験	265-270 第169-第172	第2期 第43回試験	265-270 第169-第172
第1期 第44回試験	271-276 第173-第176	第2期 第44回試験	271-276 第173-第176
第1期 第45回試験	277-282 第177-第180	第2期 第45回試験	277-282 第177-第180
第1期 第46回試験	283-288 第181-第184	第2期 第46回試験	283-288 第181-第184
第1期 第47回試験	289-294 第185-第188	第2期 第47回試験	289-294 第185-第188
第1期 第48回試験	295-300 第189-第192	第2期 第48回試験	295-300 第189-第192
第1期 第49回試験	301-306 第193-第196	第2期 第49回試験	301-306 第193-第196
第1期 第50回試験	307-312 第197-第200	第2期 第50回試験	307-312 第197-第200
第1期 第51回試験</			

DTPで一括組

[illegible]

DTPで一括組

品名及び数量	Price	品名及び数量	Price
か		米煮詰の炊飯器用紙	351-10
煮詰の炊飯器用紙	306-15	米と味噌の炊飯器用紙	306-20
煮詰の炊飯器用紙	306-20	米と味噌の炊飯器用紙	311-13
煮詰の炊飯器用紙	306-25	米と味噌の炊飯器用紙	306-20
煮詰の炊飯器用紙	306-30	米と味噌の炊飯器用紙	306-17
煮詰の炊飯器用紙	306-35	米と味噌の炊飯器用紙	311-15
煮詰の炊飯器用紙	316-20	米と味噌の炊飯器用紙	306-20
煮詰の炊飯器用紙	316-25	米と味噌の炊飯器用紙	306-20
煮詰の炊飯器用紙	316-30	米と味噌の炊飯器用紙	306-17
煮詰の炊飯器用紙	316-35	米と味噌の炊飯器用紙	311-15
煮詰の炊飯器用紙	306-40	米と味噌の炊飯器用紙	306-17
煮詰の炊飯器用紙	311-20	米と味噌の炊飯器用紙	311-15

DTPで一括組

A-4. SGMLからインターネットへ

(1)1886年: SGMLがISOで標準規格となる(ISO/IEC8879) JIS X 4151:1992

SGMLの理念、ポテンシャルに注目した少数の人達が日本でも研究開始(約50人程度)

福重:カラオケデータベースをSGMLで構築 ⇒ 印刷へ応用(1987年)

★想定ほど、SGMLの普及は進まなかった。理由は

- ・パソコンでは力不足(HD数M、CPUクロック20Hz)
- ・ユニックスで高価な上にアプリがない
- ・SGMLツールがない
- ・コンピュータスキルが低い

※仕様の複雑さが原因という人がいるが、逆説的な言い方に過ぎない。

福重: 当時としては十分に使いこなしていた。

印刷だけでなく、ハイパーメディアとしての利用も十分できた。

但し、1995年ころから⇒ サンプルへ インターネットより遥かに高度なハイパーメディア

(2)一旦、DTPへ集中(マックの登場)

主業務である印刷物作成のDTPのシステム化へ集中

- ・1984年 Mac発売
- ・1987年 米国DTP革命
- ・1989年 日本語対応ソフトQuarkXPress発売(現在まで国内のべ60万本 ¥30万)
- ・1993年 日本語対応強化(国内DTP化急加速)

福重:社内システム化(異種コンピュータの連携LANシステム)

(3)インターネット時代へ

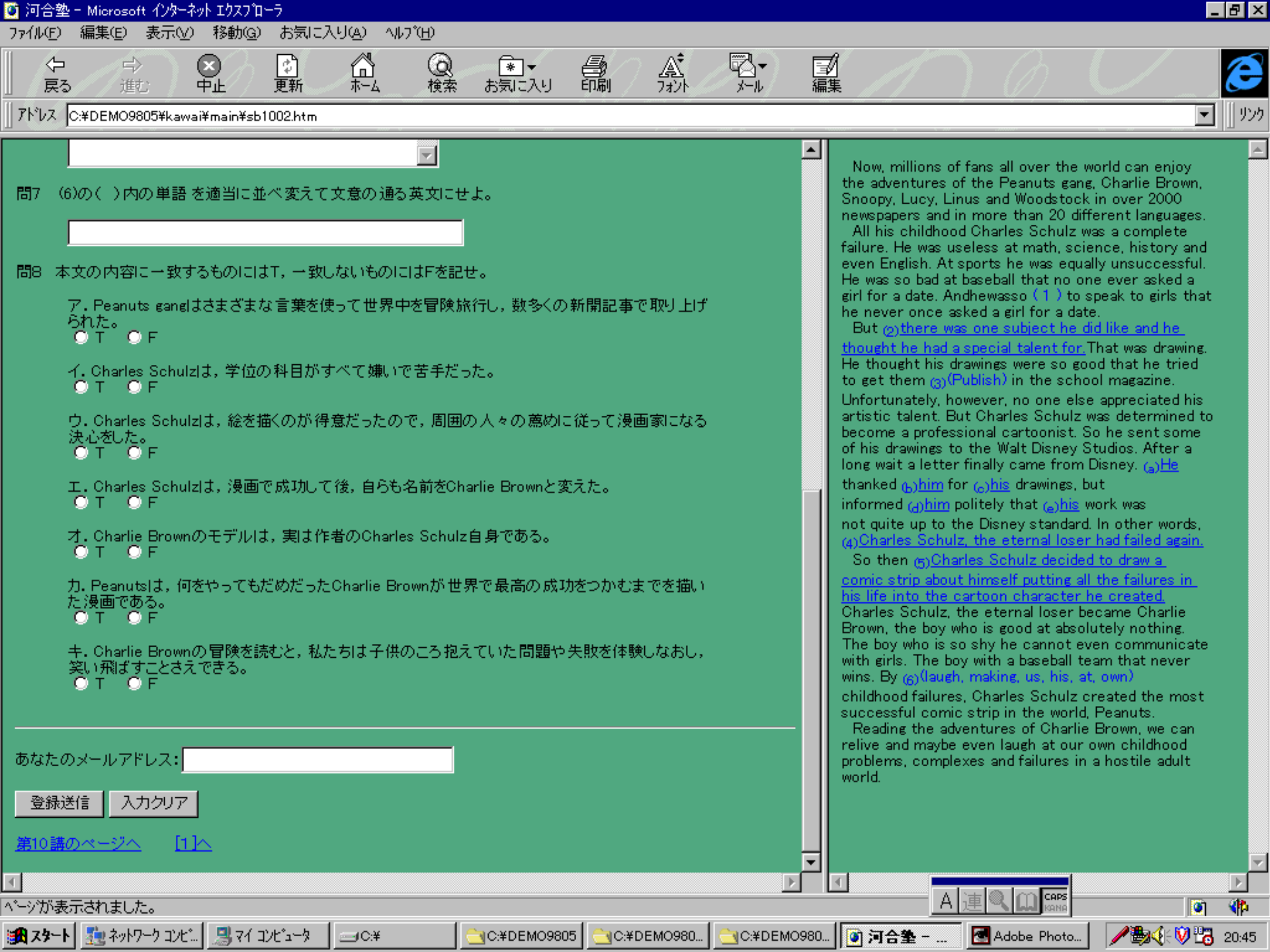
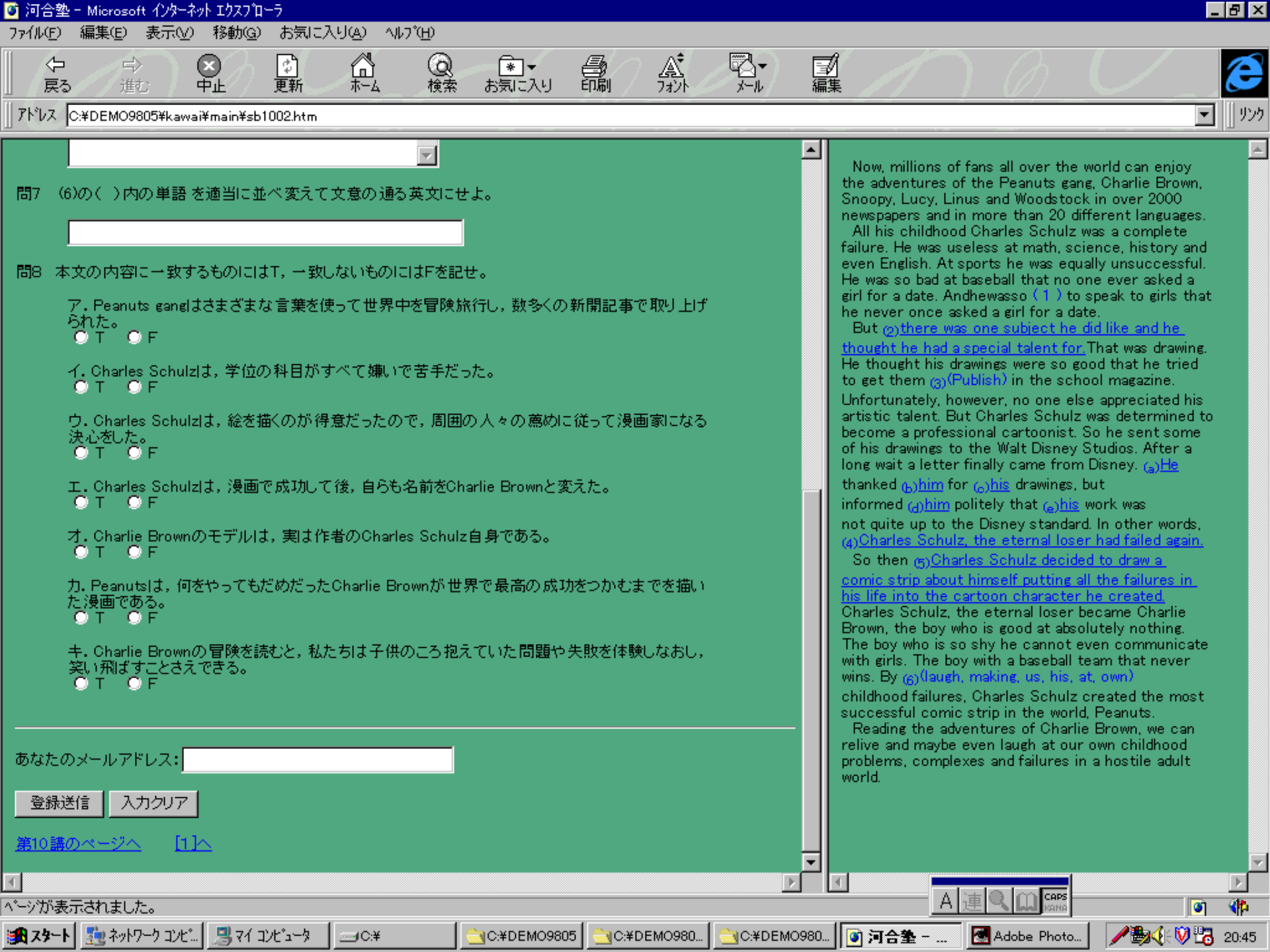
- ・1995年 DTP化の完了を宣言し、ハイパーメディアによる情報発信をビジネス化

※厚生省;『戦史叢書』全100巻のSGML化を受託。

SGML及びインターネットがビジネスになる。⇒本気で事業部を

業務年表(DC設立以前:原点)

- 1987 SGML化研究開始
歌詞管理システム構築
マークアップ言語システム構築
- 1989 構造化DBシステム構築
自動索引システム構築
バーコード作成システム構築
- 1990 MacDTPシステム化開始
通信カラオケサービス提案
- 1991 SGML-写研出版システム構築
SGML-IPS出版システム構築
- 1992 SGML-インターリーフ出版システム構築
SGML-TeX出版システム構築
- 1993 ISO9000対応研究
医薬品データ管理システム(SGML)運用
SGML-DTP出版システム構築
- 1994 ISO9000対応マニュアルシステム構築
SGML情報統合化プラン提案
SGML-ISO9000セミナー開催
エデュテイメントCD-ROMタイトル制作／販売
- 1995 官庁文献SGML化(戦史叢書)
DTP画像情報系本格LAN構築
各社DTP化対応コンサルティング
日本語SGMLブラウザの実用化
- 1996 各社／官庁SGMLパイロットシステム構築多数
各社／官庁ホームページ多数
画像データベースシステム構築
DTPカラーマネージメントシステム実用化／通信系オンデマンド印刷システム提案





英語総合

はじめに

第1講

→ [1]

Warming Up

[2] 次の英文を読んで、設問に答えよ。

第2講

第3講

第4講

第5講

第6講

第7講

第8講

第9講

第10講

付録

第1講 解答

There are many

b. やっと私

At last, I learned () to drive.

c. 野球をするのが好きな少年もいれば、サッカーをするのが好きな少年もいる。

Some boys like playing baseball; () like playing soccer.

d. すべての子供たちがサマーキャンプに参加するとはかぎらない。

Not () children take part in summer camp.

(2) () 内の語を正しく並べ換えよ。

a. この学校には料理のしかたを教える授業がある。

In this school there (classes, how, are, to cook, to teach).

b. この学校には男の子が料理のしかたを学ぶ授業がある。

In this school there are (boys, classes, for, how, to cook, to learn).

[2] 次の英文を読んで、設問に答えよ。

英文



第2講

During the summer some children go to camp. A camp is a summer vacation place for children. Campers participate in sports activities like swimming, boating, or riding horses. They also take part in other activities like playing games and painting pictures. In the evening they sit around a campfire and sing songs or tell ghost stories. Some camps combine special programs with the usual camp activities. There are camps to teach tennis, basketball, or other sports. There are camps to teach science or music. There are also camps for intelligent children, fat children, or handicapped children. Now there are computer camps. Denison Bollay owns a computer camp. At his Camp Children learn how to use computers. Computers are very important today, so children must learn how to use them. Many schools have computers for the students to use, but not all the students know how to use them. Some schools do not have a program to teach the students. So, Bollay's camp combines important computer learning with summer fun. Bollay's campers have three computer classes a day. They study computer language and programming. After a few days of classes, each camper designs a computer program. Some campers design programs to help parents at home. Others design programs to help students at school. Some campers design computer games. Bollay's campers must also choose two camp activities a day. They can choose an activity like swimming, boating, painting, or horseback riding. In their free time, the campers can choose any activity. What do they do in their free time? Well, they do not swim, and they do not ride horses (?)



- **KY**
- 一般用医薬品
- 一般用医薬品添付文書
- ケイワイ製薬株式会社

一般用医薬品添付文書 アイコンせき止め液Z

せき・たん……

日本標準商品
872249

アイコンせき止め液Zは、いろいろな原因で起こる“せき”をしずめ“たん”の切れをよくします。また、甘みをおさえたさわやかなミントの風味の液剤ですから、苦しい“せき”しつこい“たん”の時にも服用しやすくなっています。



薬効分類	鎮咳去たん薬
剤型	液剤
製剤の色調	淡緑色・透明
風味	ミント風味
使用期限	3年
小箱包装	100ml D50×W50×H125mm
個包	100ml 入数10×60/D350×W280×H294mm/10, 500g
統一商品コード	100ml 114-31230-3
発売年月日	100ml 1992年6月

成分・作用

アイコンせき止め液Zは淡緑色透明のミント風味を持つ液剤で、成人1日量（60ml）中の成分、含量及びその主な作用は次のとおりです。

成分	含量	作用
リン酸コデイン	50mg	“せき”を起こす中枢に作用し、“せき”をおさえるすぐれた効果があります。
d-塩酸メチルエフェドリン	75mg	気管支を拡張する作用と気管支のけいれんをおさえる作用により“せき”をしずめます。
塩化リゾチーム	60mg（力価）	のど粘膜のはれをおさえ、からまる“たん”を溶解して出しやすくします。
マレイン酸クロルフェニラミン	12mg	抗ヒスタミン剤の一つで、アレルギーが原因となって起こる“せき”に効果があります。
無水カフェイン	60mg	頭痛、不快感をやわらげ、またおさえておさえます。



KINYOSHA PRINTING CO., LTD.

プリプレス 用語 ナビゲーター
PREPRESS WORD NAVIGATION

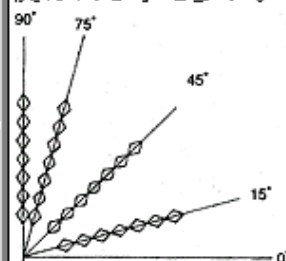
あ
い
う
え
お
か
き
く
け
こ
さ
し

数字
欧文
A
B
C
D
E
F
G
H
I
J
K
L
M
N
O
P

Architecture
Archiver
ARPANET
Art Post
Artificial Intelligence
Ascender
Ascending order
ASCII
ASCII NET
Asterisk
AT機
AT&T
ATM
Authoring Tool

網点角度 (スクリーン角度)

多色印刷の際、各版の重なりあいによって生じるモアレ (干渉縞) を防ぐため、各版の網点の配列に一定の角度差をつけたもの。一般に45°の角度が一番目につきにくく、そこから30°づつ離して複数の網の並びを配置していく方法が都合がよいとされている。C・M・Y・Kのプロセスカラーの場合、90°の範囲の中で30°の違いに4つの角度を設定するのは不可能なので、インクの発色の特性上、一番目立つK (墨) 版 (写真分解の場合はM版) を45°に設定し、目立たないY版を他の版と15°違い (0°ないし90°) に設定する事が多いが絶対ではなく、原稿の調子や使われる色の指定によって設定を入れ換えて使われる事も多い。

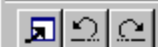


網点製版 (方式)

印刷物のインキの膜厚は均一で、インキの付着密度を変化させることで濃淡を表現する方法。写真原稿の濃淡 (連続階調) を、網点の大小に変換し、網点の大小、粗密によって表現する。写真だけではなく、特定の部分に均一な濃度をつけたい時にも同様。濃度は100%を最高に、単位面積当たりの網点が占める面積比を主に10%きざみの百分率で表す。平版 (オフセット) や凸版方式で主に使われる。

網点線数

スクリーン線数と同じ。網点の細かさを表す単位で、1インチ (2.54mm) を基準単位としてその中に1列状 (線状) に並んだ網点は何本あるかをいう。同じ濃度で比べた時、線数が多い程網点ひとつの大きさは小さくなり単位面積あたりの個数は増える。線数が多い程画像のディティールは鮮明になり元となった原稿の階調に近づくが、半面、EO刷条件によってはドットゲイン (網点のつぶれ) が起きやすくなる。この為線数は印刷の方式、用紙、機械の精度、印刷物の用途や目的によって選択される。新聞



50音順 ジャンル別 語句検索

- 白-リ
- リアル・プロパティ (国際法務)
- リアロウアンス (外為与信)
- リーエン (国際法務)
- リース (経営)
- リース[1] (経済一般)
- リース[2] (経営)
- リース[3] (融資実行)
- リース[4] (国際金融)
- リース[5] (経済一般)
- リース[6] (税務会計)
- リース[7] (税務会計)
- リース・アンド・ラグズ (外為与信)
- リース・アンド・ラグズ[1] (外国為替)
- リース・アンド・ラグズ[2] (国際金融)
- リース・アンド・ラグズ[3] (外国為替)
- リース・アンド・ラグズ[4] (国際経済)
- リース契約 (国際法務)
- リースの会計処理 (税務会計)
- リースの税務 (税務会計)
- リース・バック (経営)
- リース料 (経済一般)
- リース料[1] (経営)
- リード・マネージャー (外為与信)
- ラインパーシング・バンク (外為与信)
- ラインパーシメント・クレジット (外国)
- ラインパーシメント・ドラフト (外国為)
- 利益相反 (外国為替)
- 利益還元ルール (証券一般)
- 利益管理 (財務分析)
- 利益管理会計 (簿記財務)
- 利益供与の禁止 (商法)
- 利益(金)処分計算書 (簿記財務)
- 利益計画図表 (経営)
- 利益参加社債 (債券)
- 利益準備金 (商法)
- 利益準備金[1] (簿記財務)
- 利益償還 (経営)

リースの税務

リースの利息

税務会計

リース
利息

資産をリース*した場合、そのリース取引の内容が一般の賃貸借*と同じように、使用した期間に対応する分だけリース料を支払い、かつ、いつでも自由に契約を終了できるというようなものであれば、そのリース料はリース期間に応じて損金計上することができる。しかし、次のいずれの要件にも該当するリース取引（ファイナンス・リース*）のうち、その経済的実態からみて一般の賃貸借と同一視することが不適当と認められるものについては、税務上、その実態に応じた取扱いをすることになっている（「リース取引に係る法人税および所得税の取扱いについて」（1978（昭和53）年7月20日付直法2-19）。①リース期間中のリース料の合計額がリース物件の取得価額と付随費用（金利、固定資産税、保険料等）のおおむね全部を支弁するように定められていること、②途中解約が禁止されているか、または途中解約に際して未経過期間のリース料のおおむね全部の支払いを請求されるようになっていること。具体的な取扱いは以下のようである。①ファイナンス・リースのうち、次のいずれかに該当する場合には、税務上は当初に売買があったものとして取扱う。（イ）リース期間経過後、リース物件を賃借人に無償または名目的対価で譲渡または再リースすることが定められているもの、（ロ）土地、建物、建物付属設備または構築物を対象とするもの、（ハ）特殊仕様の機械装置等で他に転用困難なもの、（ニ）建設工事用の仮設資材等でリース物件の特定が不可能と認められるもの、（ホ）上記以外でリース期間がリース物件の法定耐用年数に比べて相当短く、かつリース期間の中途または経過後、賃借人にそのリース物件を購入する権利または義務があるもの。②リース対象物の法定耐用年数よりはるかに短い期間を基本リース期間とし、その後低料金で再リースするような場合には、基本リース期間におけるリース料のうち適正リース料を超える額を前払費用として取扱う。③中古資産のリース・バックが行われた場合には、一連の取引が前後の事情からみて実質的に金融取引と認められるかぎり、税務上は譲渡がなかったものとし、リース料は借入金の元利支払いとみる。したがってリース料については、そのうち支払利息に該当する部分のみが損金として計算されることになる。



- 第1分類
 - 1. 1 設備システムに関する分析評価の概要
 - 1. 2 構成技術に関する分析評価の概要
 - 1. 3 注目設備品及び重要技術の概要
- 第2分類
 - 2. 1 設備システムに関する分析評価の概要
 - 2. 2 構成技術に関する分析評価の概要
 - 2. 3 注目設備品及び重要技術の概要
- 第3分類
 - 3. 1 設備システムに関する分析評価の概要
 - 3. 2 構成技術に関する分析評価の概要
 - 3. 3 注目設備品及び重要技術の概要
- 第4分類
 - 4. 1 設備システムに関する分析評価の概要
 - 4. 2 構成技術に関する分析評価の概要
 - 4. 3 注目設備品及び重要技術の概要
- 第5分類
 - 5. 1 設備品等に関する分析評価の概要
 - 5. 2 構成技術に関する分析評価の概要
 - 5. 3 注目設備品及び重要技術の概要
- 第6分類

第1分類

1. 1 設備システムに関する分析評価の概要

1. 1. 1 自動車／運搬機

冷害終焉後、世界的に農耕費の削減傾向があるとはいえ、欧米及びロシアを中心に新自動車の開発／配備及び新技術の実証研究が盛んに進められている。

— 今後の自動車は、スムーズ性・高機動性等の性能が飛躍的に向上すると共に、その開発経費も著しく高騰すると考えられる。このため、1機種に要撃・制空・航空阻止・近接支援等の多種任務に使用できる多用途性が要求される一方で、異なる複数機種の開発が必要な場合には、共通した新技術を同時に開発しようとする動きがある。

今後の自動車は、スムーズ性・高機動性等の性能が飛躍的に向上すると共に、その開発経費も著しく高騰すると考えられる。このため、1機種に要撃・制空・航空阻止・近接支援等の多種任務に使用できる多用途性が要求される一方で、異なる複数機種の開発が必要な場合には、共通した新技術を同時に開発しようとする動きがある。

— また、将来自動車のための新技術の確立のために、多数の実験機による技術実証計画が進められている。AFTI/K-16 (Advanced Fighter Technology Integration : 将来型自動車技術統合)、K-16MATV (Multi-Axis Thrust Vectoring : 多軸推力偏向) 及び米独共同の高迎角機動研究機であるX-31の飛行試験は終了したが、K-15S/MTD (STOL Maneuvering Technology Demonstrator : 短距離離着陸／機動技術実証機) 及びF/A-18 HARV (High Alpha Research Vehicle : 高迎角研究機) の計画が継続されている。また、遠隔操縦無人機を用いて、無尾翼自動車のスムーズ性・高機動性の飛行実証のためのX-36の飛行試験が1996年夏から始まる予定である。

また、将来自動車のための新技術の確立のために、多数の実験機による技術実証計画が進められている。AFTI/K-16 (Advanced Fighter Technology Integration : 将来型自動車技術統合)、K-16MATV (Multi-Axis Thrust Vectoring : 多軸推力偏向) 及び米独共同の高迎角機動研究機であるX-31の飛行試験は終了したが、K-15S/MTD (STOL Maneuvering Technology Demonstrator : 短距離離着陸／機動技術実証機) 及びF/A-18 HARV (High Alpha Research Vehicle : 高迎角研究機) の計画が継続されている。また、遠隔操縦無人機を用いて、無尾翼自動車のスムーズ性・高機動性の飛行実証のためのX-36の飛行試験が1997年から始まっている

1. 1. 2 耕運機

耕運機は、第2次大戦において戦略耕運の重要性が認識され、航空戦力において確固たる地位を築いた。特に、戦後の冷害時代には、世界を二分する東西両陣営それぞれの旗頭である米ソ、両国が耕運機の開発競争を繰り広げた。F-47、P-57、T-14、M-4等が開発

A-5. SGML/XML利用の発展

版下作成の効果率

版下システム転換

DB
利用出版システム

マルチメディア出版

WEB利用

新規事業展開

(ケイタイ利用)

' 60	' 70	' 80	' 90	年代	
SGML概念	ANSI検討	' 86 ISO8879	' 92 X4151	SGML規格	
IBM	' 83 DoD	' 87 AAP	' 90 懇談会	利用状況	
		' 88 CALS	' 94 NCALS	C A L S	
' 45 ハイパーテキスト概念	' 70 同実験	' 86 HyperCard	'90 HTML	' 98 XML、XSL	関連技術
CTS WP	TeX	DTP	PDF	関連技術	
社内利用	DB出版ブーム<' 86 ~> CD-ROM (エンターテイメント系) <' 92 ~' 95 > インターネットブーム<' 96 ~> 複合目的型<' 93 ~> B P R、新規事業<' 97 ~>				各社の事情による 現在の状況

(B) XMLの到達点(現状認識)

(XMLの現状評価について独自の見方で整理)

(1)ドキュメント(平文)XML **vs** データ(CSV)XML

(2)メタXML **vs** インスタンスXML

(3)標準化と業界適用の状況

(4)ドキュメントXMLの課題 ⇒ 学術出版の課題

B-1. ドキュメント(平文)XML vs データ(CSV)XML

- ① XMLはそもそもSGMLから派生したものであるが、
Web表示視点が強調されドキュメント(平文)の視点が薄くなっている。
- ② HTMLからの要求としてもデータ利用の視点が強調
- ③ HTMLもXMLもドキュメント(平文)に関しては
⇒現時点でも手作業による生成、個別表示にとどまり、
費用と再利用性に疑問を持たれたママ！
- ④これに対し、データ(CSV)のXML化の対応は
元データが既にStructured Data(構造化データ)として存在していることが特徴。
※SGML、XMLは米国ではSemi Structured Data と呼ばれている。
その生い立ちから生成には問題がなく、費用も発生しない。
変換、流通、再利用が特徴的である。
(発生してもシステム予算や製造予算に組み入れられる)
アプリケーション、DB間連携、統合する Enterprise application integration(EAI)
やBIとしてツールビジネスが成功

全体的にはXMLと言えば、データXMLの方が普及した。

B-2. メタXML vs インスタンスXML

最近の特徴はWeb2.0、Enterprise2.0と言われる、

メタデータやタギング(分類等)に注目

- ・データXMLの通有性を高めるためのラッピングXMLがメタXMLの代表
- ・WebではRSSが急速に普及
- ・グーグルやアマゾンでのCGMなど

これに対し、情報実体であるインスタンスのXML化は停滞。

⇒ドキュメントXMLの停滞と同期

- ・内部情報は検索エンジンやマイニングツールで一次しのぎ的に処理

※Enterprise Search エンジンを購入する企業多い。

Concept Base3000社とも

XMLは急速に利用されているが、

ドキュメント(平文)対応はアマゾンでも実現できていない。

B-2. メタXMLの活用の可能性

サイト表示レイヤ(RSS素のみ合わせで自由にサイト構築)

RSS素レイヤ(RSS素DB)

ユーザーがMS-Officeなどで発行したRSS素が集合。

RSS素を組み合わせてサイト構成を行う。

コンテンツレイヤ(CMS層)

XML文書

RDB

OFFICE文書

動画コンテンツ

WEB

その他

ユーザーは通常のMS-Officeなどで原稿作成し、RSS素と一緒に送信

メタXMLの活用

SODEC_panel_4.pdf - Adobe Reader

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 文書(D) ツール(T) ウインドウ(W) ヘルプ(H)

1 / 1 20% 検索

文書共有から知識共有へ
あなたの会社のナレッジが見えます。

起動時焦点トピック: 共通タスク: [117]社内業務

Ayaori-RSS【文織】を10人で半年間使用すると…

250文書の蓄積 × 1文書につき10回の履歴 × 10名 = 25000文書が統合管理

20万行のXMLが自動生成

メタデータと分類が完成

Know Whoは一目瞭然

スタート C:\Users\DC\Desktop\... SODEC_panel_4.pdf ... 100% 18:12

B-3. 標準化と業界適用

1. 標準規格オーバービュー

XML基本標準は数多くの規格が制定されている。またこうした基本規格と共に、応用規格(ボキャブラリ)も他団体と協力して制定している。

- XML標準化団体

- ①W3C(World Wide Web Consortium)②IETF (The Internet Engineering Task Force)
- ③OASIS (Organization for the Advancement of Structured Information Standards)

- XMLメイン規格

現在メイン仕様はXML1.0(Second Edition)。

2. 主要なXML標準規格

- Namespaces(名前空間)

- XML Schema(XMLスキーマ)

※XMLのスキーマには、DTD、Schemaの他、RELAX NGがある。

- DOM(Document Object Model)

XML文書へのAPIとしては、この他、比較的シンプルな SAX(Simple API for XML)もある。

- XSL/XSLT (XML Stylesheet Language / Transformation)

XSL-FO(XSL Formatting Objects)はXSLによる組版のためのXMLに準拠した規格である。

- XML Query

※DB2やOracle11等で実装

- XLink (XML Linking Language)

ほか多数の規格化が準備されている。

B-3. 標準化と業界適用

1. 応用規格オーバービュー

XMLは基本標準を基に数多くの応用規格が制定されて(ように)いる。

応用規格はW3C他の標準化団体が策定したものと、政府、業界団体、企業、個人が策定したものまで数多く存在し、現在バージョンが不明なものも多い。

また、有用でデファクトスタンダードとして活用されているもののいくつかはW3C標準として採用されているものもあり、各団体からも積極的にW3Cへ採用を提起している。

基本標準と応用規格の関係は右図のように整理される。

応用規格はXMLボキャブラリやXMLアプリケーションと呼ばれる場合もある。今回の一覧は下記の分類で作成した。

汎用

応用技術

流通・商取引

科学・医療

金融・財務

人事・人情報

行政・法律

放送・報道・出版

旅行・地理

建設・不動産

Webサービス

マルチメディア(モバイル)

マルチメディア(音声)

マルチメディア(描画)

マルチメディア(記述)

マルチメディア(アクセシビリティ)

ネットワーク

その他

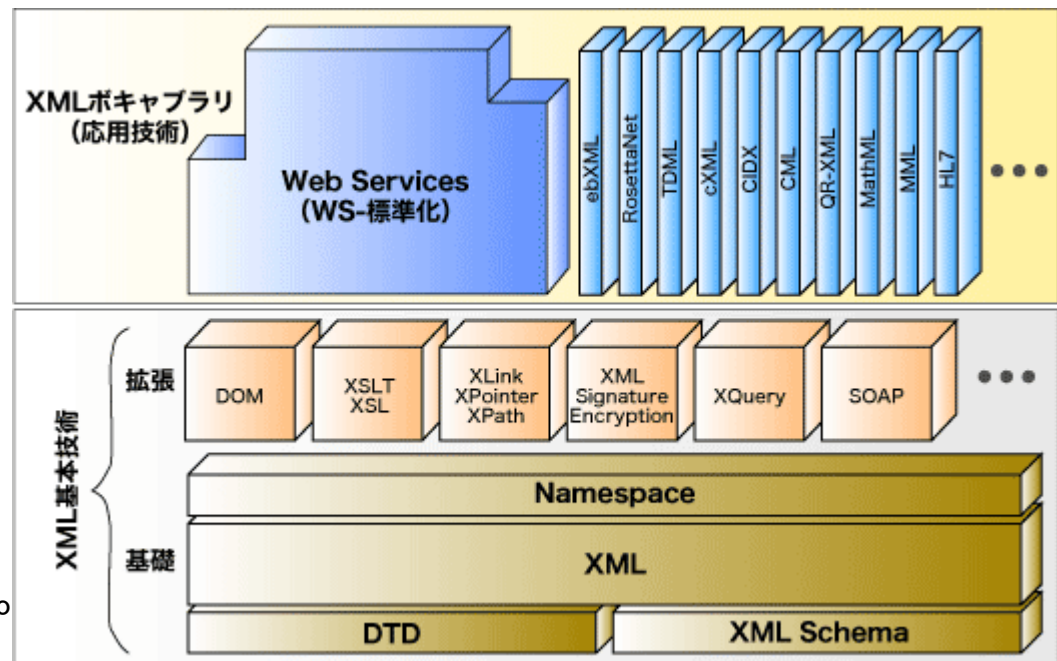
出典:

www.infoteria.com/jp/xmlnote/

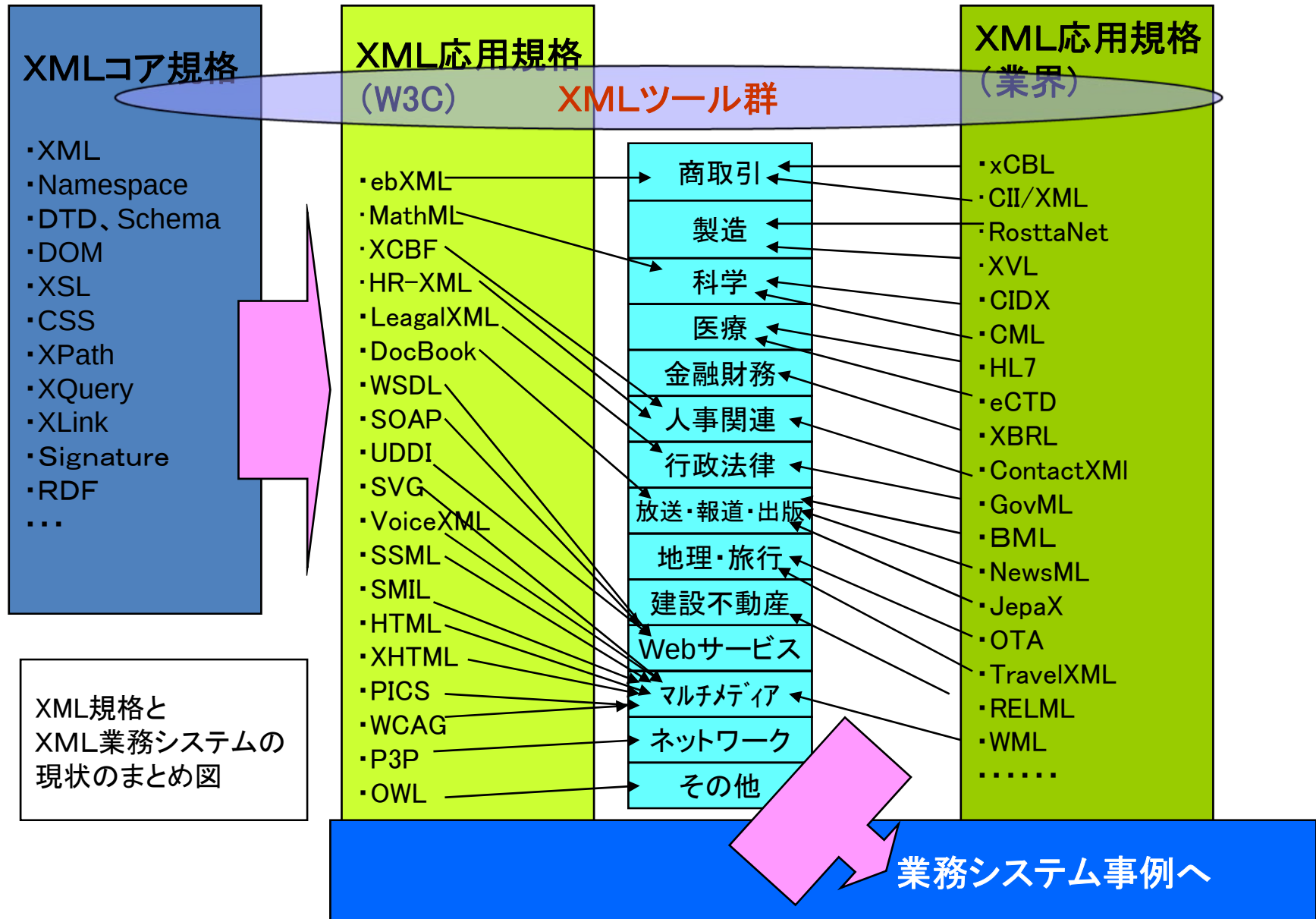
2. 主要なXML応用規格(一覧及び概要を参照)

主要で重要と思われる応用規格を列記する。

- WSDL(W3C: ウェブサービス: 定義)
- SOAP(W3C: ウェブサービス: 通信定義)
- SVG(W3C: マルチメディア: 画像)
- HTML(W3C: インターネット)
- RosettaNet(RosettaNet: サプライチェーン)
- XBRL(xbrl.org: 財務情報)
- BML(電波産業会ARIB: デジタル放送)
- NewsML(国際新聞通信委員会IPTC: ニュース配信)
- TravelXML(日本旅行業協会: 旅行関係情報)



B-3. 標準化と業界適用



B-3. 標準化と業界適用

(1)日本におけるXML公式団体:XMLコンソーシアムの調査

XMLの利用実態を 業種/業務/技術の視点から一望

✦マクロな視点で、業種や業務を横断した利用実態を把握

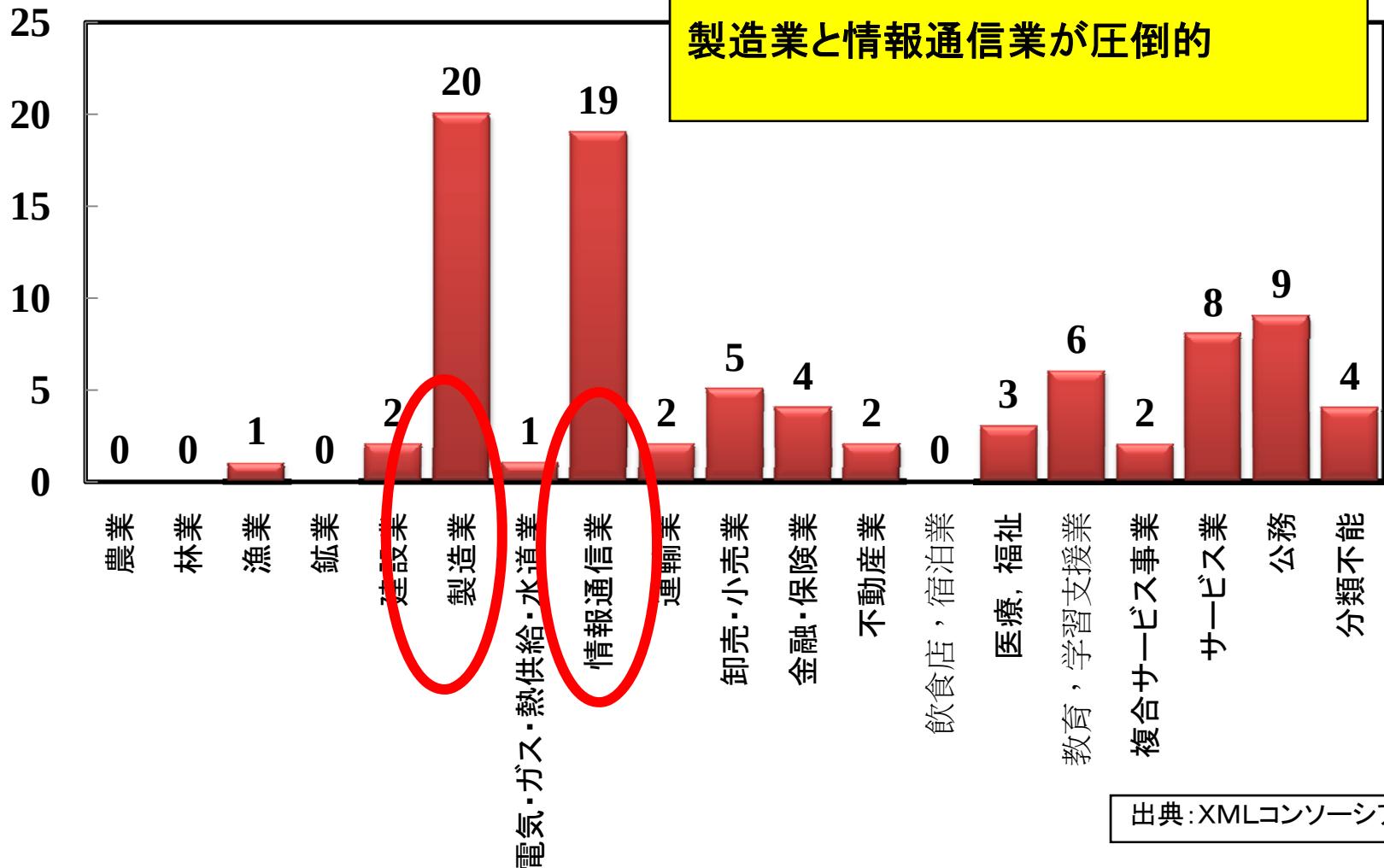
業種、業務、技術の各視点から 具体的な事例に詳細化

- ✦同業種、あるいは異業種における利用状況
- ✦関連する業務の利用状況
- ✦事例を業種、業務、技術を関連付けて探し出す

出典:XMLコンソーシアム

B-3. 標準化と業界適用

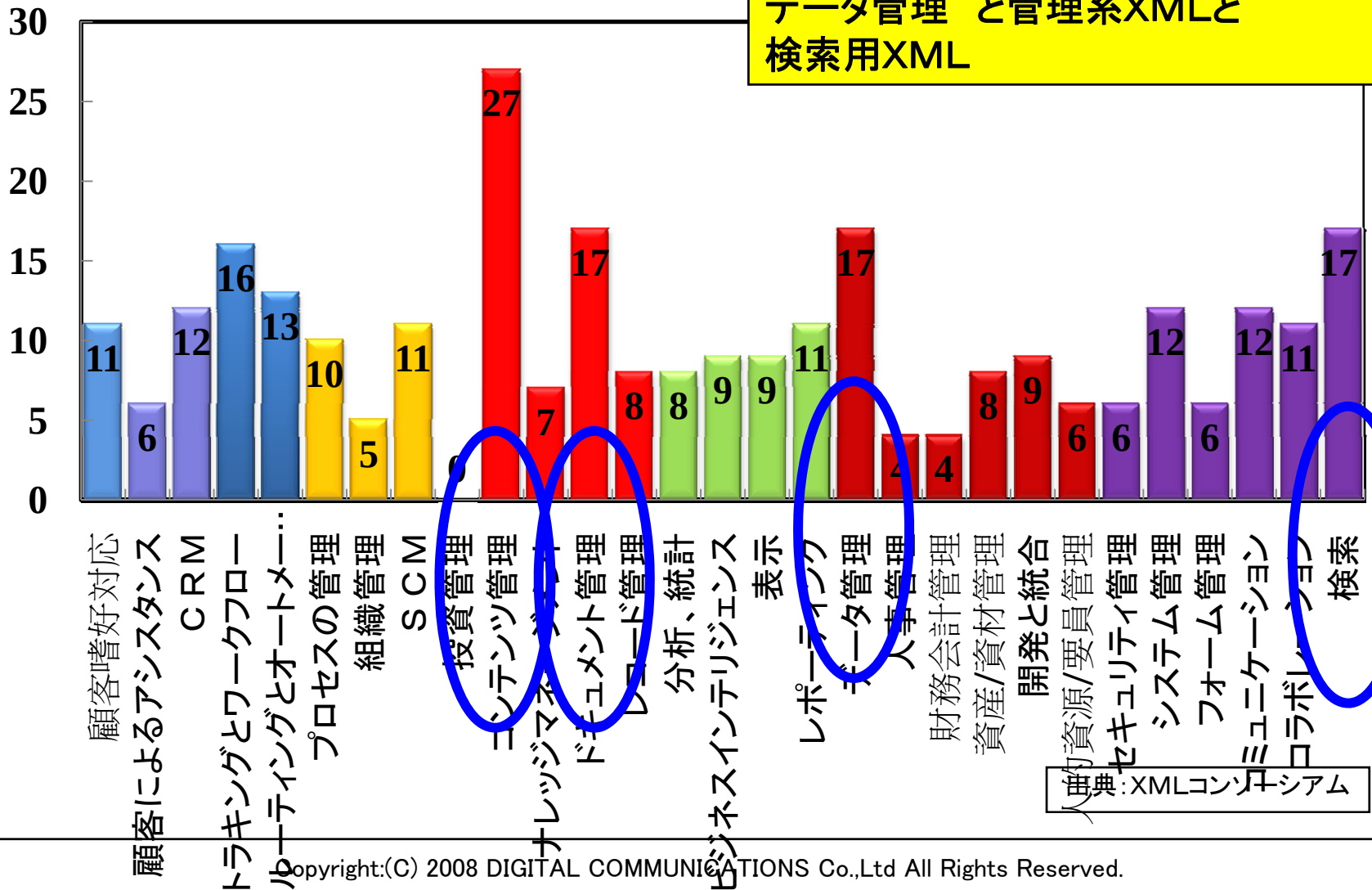
(2)適用業種・業界



B-3. 標準化と業界適用

(2)対象システムの領域

コンテンツ管理、ドキュメント管理、
データ管理 と管理系XMLと
検索用XML



典:XMLコンソーシアム

B-3. 標準化と業界適用

(2)利用しているXML技術

XSLが圧倒的。
Webサービス系も多い

